

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム  
実施状況および成果

プログラム名	グローバル人材育成のためのスウェーデン学校臨床実習	
学部・研究科名	教育学部・教育学研究科	
プログラム実施期間	2019年11月 16日～11月 24日(一部参加者は11月28日)	
研修先(国・都市・施設名)	スウェーデン 1) Saltsjobadens Samskola, Samskolevagen 2) Boo Gard Skola och Forskola, Galarvagen 3) ウプサラ市内基礎学校・特別支援学校 4) Uppsala University, Faculty of Education	
参加学生数	14名	知の森からの支援者数 12名
プログラム概要	教育のグローバル化が本格的に到来し、教員にもより広い視野が求められている。教育学部や教職大学院を出た学生は、地域の中核的な教員になることが期待されている。本プログラムでは、グローバル教育を積極的に推進するスウェーデンの学校等を訪問し、授業参観や職場体験を経験することによって、グローバルな視野で学校教育に貢献できる人材を育成することを目的としている。約1週間の滞在中、複数の基礎学校(就学前学級・小学校・中学校)を訪問し、現地教員のシャドウイングを行った。また、学校訪問後にはリフレクションの時間を設け、学習の深堀りや成果のまとめを行った。また、一部の参加者は特別支援学校・学校(小・中・高校)を訪問した。プログラムには教職大学院の現職教員(長野県内の公立小中学校勤務)、学卒生、教育学部生と参加者の子ども3名が参加した。	

実施状況・成果

本プログラムは、教員志望の学生に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、スウェーデンの学校(幼稚園、就学前学級、小学校、中学校・高校、特別支援学校の段階に当たる)を訪問する研修旅行を企画した。

11月18日(月)にはスウェーデンで最も成功している学校として知られるSaltsjobadens Samskolaを訪問し、学校概要の説明や校舎の案内を受けた。また、夜には教職員と夕食会を開催した。11月20日(火)には、スウェーデンで最も裕福な住宅街に位置するBoo Gards Skola & Forskolaを訪れ、日本式の授業研究の導入や算数授業の研修などの話を聞き、教室内の家具プロジェクトなど先進的な取り組みの様子を視察した。11月20日(水)から22日(金)にかけては、前二者の学校と、ウプサラにある特別支援学校2校(小・中・高校)において一人1教室に滞在し、教師のシャドウイングをしながら日常の様子を観察した。学校訪問後には、2時間程度のリフレクションを行い、各参加者が感じたことや我が国への示唆等について話し合い、理解を深めた。

また、今回のプログラムでは、18日(月)の夜に実習校の教職員がカラオケ・ナイトを企画してくれ、学校のカフェテリアでスウェーデンの伝統料理を食べながら交流を深めた。加えて、19日(火)にはストックホルム商科大学に在籍するスウェーデン人学生がチームビルディング研修(レーザーゲーム)に参加し、交流した。

帰国後は、学部内での報告会と、一校一国運動の発表会におけるポスター発表を行い、研修の成果を報告した。

学生たちにとっては、自分の専門とする分野(教育)において海外の事例を目にすることができ、大変意義のあるプログラムだった。学部および国際交流課には、事前準備の段階から多くのご支援をいただき、安全に渡航することができた。今後も同様の取り組みが続けられることが望まれる。

学生の声①-教育学研究科(教職大学院)学生

海外研修前は、言葉が通じないことに不安で仕方がなかった。教室に3日間滞在したとき、子ども達との距離がぐっと近づいたのは外での遊びだった。小雨が降っていても子ども達と“かくれんぼ”のような遊びを毎日して遊んだ。初日に英語かスウェーデン語かどちらかの言葉でルール説明をしてくれたが、よく分からなかった。最終日になってもいまいちルールは分からなかったが、それでも一緒に遊ぶ時間は本当に楽しかった。「アコミ!」「イコミ!」「イクミ!」と、間違えながらも一生懸命呼んでくれたり、一緒におやつを食べようと誘ってくれたり、教えたカタカナで手紙や名前を書いてプレゼントしてくれる子ども達。全てが愛おしかった。国境を越えても子ども達は可愛くて愛おしい存在あるということを知り、本当にお別れが寂しかった。実際に現地に足を運んで学び、経験したことを私なりに日本の教育でもいかしていきたいと思う。受け入れてくださった先生方や、子ども達に感謝の気持ちでいっぱいです。

学生の声②-教育学研究科(教職大学院)学生

短い時間ではあったが、実習を通して先生方の子どもたちに対する想いを肌で感じるという貴重な体験ができた。子どもたちはみな、先生をリスペクトし、先生もまた子どもたちを心からリスペクトしていた。今一度、子どもたちのために自分が何をできるのか、学校は何をすべきかを問う必要があるとスウェーデンの学校から学ぶ機会となった。

休み時間は卓球の真剣勝負



普通の授業の様子を見学

